

第二回「渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校） 建て替え準備委員会」を実施しました

第二回では、まず、建て替え準備委員会メンバーにも御参加いただいた「渋谷区立渋谷本町学園」の視察の情報共有や、第一回建て替え準備委員会の振り返りを行いました。続いて、現在の基本計画フェーズは、竣工までの全体の流れの中で初期段階であること、頂いたご質問やご意見は、各フェーズで適切に対応していくことをご説明いたしました。その後、小中一貫教育校の必要諸室の案についてのご説明、建て替え予定敷地の洪水ハザードマップの確認、一足制のメリットやデメリットについての意見交換を行いました。

今後も、皆様と情報共有・意見交換を重ねながら、新しい学校づくりを進めていきます。

発行年月日：令和7年3月5日

発行者：渋谷区教育委員会事務局

住所：〒150-8010 渋谷区宇田川町1番1号

問い合わせ先：電話：03-3463-2795 Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

R6.12.13 第二回委員会 議題

①建て替え準備委員会スケジュールについて

②渋谷本町学園視察について

③第一回建て替え準備委員会の振り返り

④必要諸室について

⑤意見交換

小中一貫教育校の必要諸室の考え方（学校の規模設定） 2024.12.13 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

部門	主な諸室	概ねの面積(m ²)
普通教室等	普通教室（小学校2クラス×6年＝12室、中学校2クラス×3年＝6室）、少人数教室（9室）、特別支援教室など	約3,020
特別支援学級等	特別支援学級、ブレイルーム、特支トイレ、特支準備室など	約430
ラーニング・コモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,080
特別教室等	理科室(小・中)、図工室(小)、美術室(中)、技術室(中)、音楽室(小・中)、家庭科被服室・調理室(小・中)、各準備室、フューチャールームなど	約1,510
管理諸室等	校長室、応接室、職員室、事務室、職員会議室、生徒会室、地域開放室、PTA室兼同窓会室、放送室、保健室、サポートルーム、学校管理室、校歴保管庫など	約1,670
給食関係諸室	調理室、事務室など	約500
体育施設等	体育館×2、武道場、用具倉庫、屋内プール、開放管理室、備蓄倉庫など	約3,520
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ事務室など	約280
共用部	廊下・階段・機械室など	約3,610
合計面積(m ²)		約15,620

渋谷区立渋谷本町学園視察について

<基本情報>

平成24年4月開校

創立13年目

児童生徒数 897名

（小学校671名、中学校226名）

学級数 34学級

（小学校26、中学校8）特支含む

教職員数 120名

<小中一貫教育の取組み>

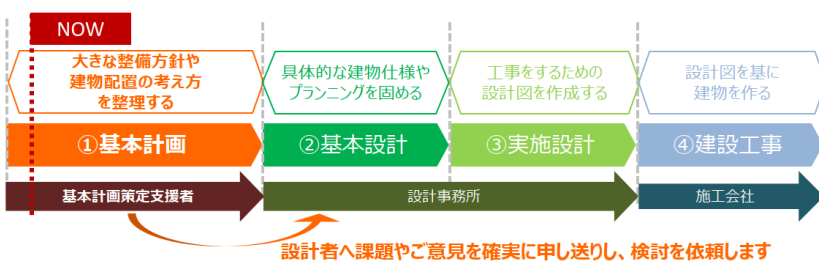
- ・5・6学年の50分授業
- ・5・6学年の一部教科担任制（英語、理科、家庭科、音楽）
- ・中学校教員による5・6学年授業への一部交流（美術、音楽、体育、外国語）
- ・部活動の小学校5年生から参加
- ・朝礼（全校朝礼、ブロック朝礼、校種別）
- ・新1年生を迎える会
- ・1年生と9年生の交流
- ・運動会（午前 初等部、午後 中・高等部）

初等部は6年生が運営スタッフとして参加



視察風景

建て替え準備委員会にて出た“計画に関わる各ご質問やご意見”は、事務局側で整理し、各フェーズで適切に対応していきます。



建て替え事業完了までの流れと現時点の位置付けについて



洪水ハザードマップ

一足制について

渋谷区では建て替え準備委員会にて頂いた意見を整理するとともに、ニュースレターを通じて進捗に関する情報発信とご意見をいただく機会を作っています。これからも引き続き、より良い小中一貫教育校を目指して委員会を開催していきますので、今後とも宜しくお願いいたします。

	質問	回答
渋谷本町学園視察	渋谷本町学園の視察で、備蓄倉庫の場所や備蓄品の運搬方法について話を聞きました。新しい小中一貫教育校でも、大きさや使いやすさ等を考慮した防災備蓄倉庫を作ってもらいたいです。	必要な大きさや適切な設置位置を考えて計画します。 また、防災備蓄倉庫の設置場所は小中一貫教育校の校舎（鉢山中敷地）だけでなく、他校の仮校舎としての使用を終えた後には猿楽小敷地を活用していくことも検討します。
小中一貫教育校建て替え	計画では理科室を2教室予定しているようですが、鉢山中は理数教育重点校であるので、一つを外部団体も使用できるラボの様な場所にしてはどうでしょうか。	学校の魅力をより高めていけるように、学校と連携しながら特色ある学校づくりの検討をします。 また時代に合わせて学校の特色が変化していく場合にも対応できるよう、可変性を持った学校施設を整備します。
	ハード面で素晴らしい建物を建てるだけでなく、ソフト面についても、児童・生徒や教職員、保護者が移転で困ることがないように考えてほしいです。	児童・生徒には自分の個性を伸ばし、未来をよりよく生きるための力を身につけることのできる環境を整備します。教職員や保護者の方々には移転による負担が軽減できるよう説明会等での丁寧な説明を行います。
	小中一貫教育校についての説明が地域にされていない。地域の人にとっては、学校が無くなってしまうのは悲しいことなので、丁寧に広報してほしいです。	これまでも地域の町会や連合町会等でご説明させていただきましたが、今後も機を捉え、地域主催のイベント等の参加を通して、様々な年代の方と直接対話できる機会を作ることを予定しています。
	長谷戸小学校の子どもたちは、学区域の中学校が鉢山中学校になる。小中一貫教育校になると途中から入りづらくなるのではないかと懸念しています。	鉢山中学区については、小学校入学のタイミングで小中一貫教育校を選択できるようにすることも含め、小中一貫教育校のメリットや効果を広く還元していけるよう、引き続き検討します。
	ただでさえ公園が減っているのに、中学生が部活動を行うことで、校庭が放課後クラブで使えなくなるのではないか。外に出られる場所も確保が必要と思うが、どの様にお考えでしょうか。	校庭の利用については、学校と連携して調整していく必要があります。例えば、時間を区切って4時までは放課後クラブが利用し、その後は部活動で利用するなどの工夫が考えられます。青山キャンパスで広尾中学校・松濤中学校・神南小学校の3校が同時に学校運営を行いますので、子どもたちが最大限の利用が出来るように工夫を重ね、新しい小中一貫教育校でも活用できるようにしてまいります。また、放課後の子どもの居場所の確保については、利用ニーズに応じて近隣の施設等の利用も含めて検討し、子どもたちが安全に過ごせる場所を確保していきます。
一足制	一足制について、港区の小学校の保護者に聞いたところ、良好な回答でした。学校に聞くと床での作業もあり、どの様に運用するかは検討が必要と考えます。床作業をする際はシートを敷く等、方針を決めておいた方がよいのではないのでしょうか。	来年度開校予定の青山キャンパスでは、先行して一足制を導入する予定のため、その実施状況を検証します。 また床作業や雨の日の課題等については現時点で認識しておりますので、具体的な対応を検討し、限られた敷地を効率的に活用します。
	二足制であれば学校に不審者が入ってきた際、下足を履いていると不審者だと判別できるのでは。防犯面を心配しています。	地域開放の敷地入口を一箇所に絞ることや、地域開放エリアと学校エリアの動線を分離すること、カードキーなどにより登録された利用者のみ入室を可能にすることなどの対策を行い、児童・生徒の安全を確保します。